

症 例 報 告

(「地域薬学ケア専門薬剤師」の 50 症例用)

領域の分類 (細則「別表2」から選択)	16:その他	患者性別	男○女	患者年齢	なし
関与形態	連携施設来局(調剤)・連携施設来局(OTC 等相談)・在宅・ <u>公衆衛生</u> ・基幹施設				
管理するプロブレム (上限 120 字)	ダニ等の害虫駆除				
自ら薬学的管理に関与した期間	自 2020 年 7 月 10 日 至 2021 年 1 月 20 日 ※「連携研修前の症例」の場合はシステムにチェックを入れてください。				
自ら薬学的管理に関与した回数	8 回 (内 フォローアップ 1 回)				
患者背景	自らの薬学的管理までの経過 (上限 190 字) 2 年程前に近隣のマンションに引っ越して来られて以降、時折来局				
	病歴 (上限 130 字) 不明				
	社会・生活歴(嗜好品含む) (上限 120 字) 夫は数年おきに転勤がある公務員、子供 1 人。				
	家族歴 (上限 60 字) 不明				
	薬学的管理開始時の処方内容 (上限 250 字) 不明				
	他科受診・併用薬 (上限 260 字) 皮膚科:アンテベート軟膏				
薬学的管理の要約 (上限 1,000 字)	医師からダニなどの害虫にかまれているようだとされたため、ダニを駆除するにはどうしたらいいかとの相談を受けた。布団や毛布等の天日干し等の他、天気がいい日に害虫駆除の燻蒸を勧める。 マンションは密閉空間になりやすいので、ダニ等が入ってくると繁殖しやすく、皮膚症状として明らかにダニ様の噛まれた痕があるなら、燻蒸剤の使用が効果的と説明した¹⁾。 間取りは 3LDK とのことなので、実施は 1 回で済ませた方が効果的なため、全部の部屋を一度に実施するように勧めた。マンションのためノンスモークタイプの燻煙剤を選定し、すべての部屋の畳数は約 40 畳程とのことなので 9~12 畳用を 4 個販売した。 使用に際しては、火災報知器にはカバーを掛け、ペット類や観賞植物は基本的に燻蒸する部屋から出すこと。パソコン、テレビ、オーディオ製品などの精密機器にはカバーをかけ、テープ、ディスクなどは箱に収納すること、飲食物、食器、子供のおもちゃ、飼料、衣類、美術品、仏壇仏具などは直接薬剤がかからないようにポリ袋に入れるか、新聞紙で覆うなどの注意を喚起し、説明書を必ず読むように指導した。 また、燻蒸後には必ず掃除機でダニ等の死骸を取り除くことが必要と説明した。 2 週間後、確認のために電話すると、燻蒸後は、家人で皮膚症状を訴えることがなくなったというので、燻煙剤で害虫駆除ができたと思われ、皮膚炎の原因はダニ等の害虫によるものだったと考えられる。				
文献 1	1) 夏原由博, 室内塵ダニとアレルギー, 日本環境動物昆虫学会誌, 1989 年, 1 巻 1 号, 40-54,				
文献 2					
文献 3					

(参考) 本症例報告に記載された「薬学的管理の要約」は 600 字です。